

研究テーマ	鑑賞活動を通して、思考力・判断力・表現力など、生徒の資質や能力を高めるための指導の工夫 - 中学校第 2 学年 「じっくり見よう 心で感じよう ～感じたことを話し合おう～ 阿修羅像を鑑賞して 」 の実践を通して -
-------	--

下妻市立千代川中学校 教諭 松本 栄子

I 研究テーマについて

鑑賞における目標としては、「単に知識や作品の定まった価値を学ぶための学習ではなく、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくり出す学習である。鑑賞学習を推進していく手立ての一つとして、言語活動の充実が図られている。他者の考えなども聞きながら、自分になかった視点や考えを持つことが大切であり、それらを取り入れながら自分の目と心でしっかりと作品ををとらえて見ることにより、自分の中に新しい価値がつくり出され、段階的に指導の充実が図られることを目指している。」と示されている。

鑑賞の授業の目標は、自分の見方や感じ方を大切にして、思いや考えを伝え合い、自分の中に新しい価値観をつくり出す力を育成することであり、作品に対する自分の見方、感じ方や考え方を他者とコミュニケーションし、個々の見方や価値意識を深めたり広げたりすることができる力を育てることだと思う。

作品の中に「見る視点」を与えることで、作品の中から対比する部分などを見つけ出すことができたり、造形的に表されたものを自分の言葉で文章化することによって、感じたことをより明確化する具体的な言語的手立てとなることができると思われる。言語を使って、他者に分かるように説明したり、生徒同士で考えを共有し深め合ったりすることで、課題の内容に対する理解が深まり興味・関心を高めることができるのではないかと考えた。

また、これらの学習を通して、日本の美術や伝統と文化に対する関心と理解を深め、より幅広く深い知識と技術を学ぶことにつながっていくことで思考力・判断力・表現力など、生徒の資質や能力を高めることができるのではないかと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 じっくり見よう 心で感じよう ～感じたことを 話し合おう～

2 題材の目標

- (1) 日本の美術や伝統と文化に対する理解を深め、作品に対するイメージを広げ考えることができる。
(美術への関心・意欲・態度)
- (2) 作品を鑑賞し、造形的な美しさや込められた思い、よさに気づきながら、自分の思いや考えをもって味わい、話し合うことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、男女ともに落ち着いた雰囲気の子が多く、物づくりに興味を示す生徒が多い。作品制作も熱心に集中して取り組んでいる。自分が感じたことや考えをワークシートに記入するような活動にも、よく取り組む姿が見られる。1年生のときには、友達作品から、感じ取った良さや、意味を考え互いに伝え合う活動や、「風神雷神図屏風」をよく観察して何が描かれているのか、見つけ出していく中で、絵の中に込められた意図に気づく場面も見られた。鑑賞の授業に関心のある生徒も多く、これまでの鑑賞の授業を通して、絵の中に描かれているものから作者の思いや、伝えたいことについて考えることができる。しかし、静かに集中して活動はできるが、発言や発表に関してはやや消極的である。3年生で行われる修学旅行では、奈良・京都方面を訪れることが多く、拝観した寺や神社仏閣で日本の貴重な文化遺産を観る機会も増えるが、生徒の興味・関心は低い。

(2) 題材観

本題材は、天平時代の彫刻である奈良・興福寺の阿修羅像を鑑賞し、同時に他の仏像に関しても知ることができるものである。その点で、八部衆の一人であり、また仏像の表情がリアルによく表れている仏像は、題材としてふさわしいと考える。阿修羅像の背景を考えながら鑑賞活動することで、自分なりの考えをまとめ、仏像への理解を深めることができると考える。また、「阿修羅像」について意見を交換し合うことによって、他の生徒の考えにも関心をもち、互いに作品の見方を深めていくことを体験させることにも適した題材である。

(3) 指導観

お互いの発信から感じ方・考え方の違いを知り、自分や友達の良さに気付ける場の積み重ねによって生徒一人一人の個性が形成されていくと考えられる。見る喜びや意欲的に体験する姿勢をさらに伸ばしていきたい。そのために、生徒の発言が作品や文化などの核心に触れたときには、資料を見せたり、解説をしたりするなど適切な指導を行い、鑑賞と美術史的な学習が自然に結びつくよう指導したい。ここでは、美をつくり出そうとする人間の心、美と感情、美の多様性や永続性などについて、自分の経験から思いを巡らせ、さまざまな視点での意見を交えながら積極的に発言することで、学び会う機会をつくり、考えを深めていく出発点としたい。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
阿修羅像の形や表情などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心をもって主体的に感じとろうとし、主体的に美術文化への理解を深めようとしている。	阿修羅像の形や表情などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、表情の相違と共通性に気付き、作品を見て感じ取った思いを、文章表現や会話を通して相互理解し自分の考えを深めることができる。

5 指導計画 (1時間扱い)

第1次

時	学習活動・内容	観点別評価規準 (B)	関	鑑
第1時	「阿修羅像」に対する自分の見方、感じ方や考え方を他者とコミュニケーションし、対話を通して個々の見方や価値意識を深めたり広げたりする。	阿修羅像について、興味関心をもち、作品を楽しみながら日本の美術や伝統と文化に対する理解を深めようとしている。 作品を見て感じ取った思いを、文章表現や会話を通して相互理解し自分の考えを深めることができる。	○	◎

6 指導の実際

(1) 目標

作品の見方を広げ、よさや美しさなどを味わい、意味や価値をつくり出す鑑賞の能力・互いに説明し合う態度を身につけることができる。

(2) 研究主題との関連

造形的なよさや美しさ・作者の心情や意図・表現の工夫などを感じ取る活動を通して、見方や感じ方・考え方を広げ、思いや考えを説明し合う能力を高め、「学力の向上をめざし、言語活動の充実を図る」という組織目標に迫りたい。

(3) 準備・資料

テレビモニター コンピュータ スライド用画像データ ワークシート 筆記用具

(4) 展開

学習活動及び内容	形態	指導・援助の留意点と評価
1 本時の学習課題をとらえる。	一斉	・美術作品に対する自分の見方、感じ方や考え方を他者との対話を通して、価値意識を深めたり広げたりすることを伝える。 作品からとらえた感情やイメージをもとに、作品について話し合おう。
2 シルエットから想像しよう (1) シルエットを見せ、「何の形か?」	一斉	・阿修羅像のシルエットを準備し、何の形に見えるかを考えさせ、形に興味・関心をもたせ

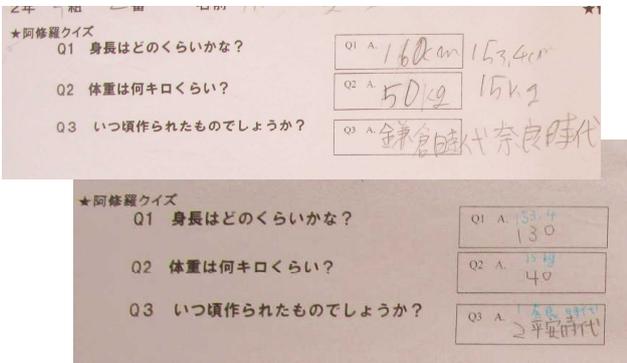
<p>「なぜそう思ったか？」などを考える。</p>		<p>る。想像する楽しさ、共有することのおもしろさを体感できるようにする。</p>
<p>3 クイズに答えながら考える。 (1) 阿修羅像の表情、体型、服装などから、製作方法、年代、などについて考える。 (2) 全体で答え合わせをしながら、意見を交換する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 発表の苦手な生徒や少数派のきらりと光る意見も取りあげ、ユニークな発想や様々な視点での感想が出るよう配慮したい。 先入観をもたない状態で想像し、各自プリントに考えを自由に書かせる。 問いかけをして形や色彩に着目させて、理由や根拠を考えさせる。 年代や製作方法を示しながら、自分たちで想像する鑑賞の楽しさを伝え、仏像の基礎知識に触れる。 生徒から出てきそうな言葉はあらかじめ紙に書いておく 表情からどんな感情が感じられるか、理由も考え、お互いの意見を交換しながら当てはめてみるようにさせる。
<p>4 阿修羅像の顔に注目して、阿修羅像の顔からどんな感情が感じられるか考える。 (1) 人の感情を表す言葉には、どんなものがあるか考える。 (2) 阿修羅像の3つの顔からそれぞれどんな感情が感じられるか、出た言葉のどれにあてはまるか考える。</p>	<p>個別 グループ</p>	<p>④ 作品を見て感じ取った思いを、会話を通して相互理解し、自分の考えを深めることができたか。(発表・ワークシート) <評価の視点></p>
<p>5 興福寺の阿修羅像のビデオを観る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えをもって作品をじっくり味わい、発見したことや感じたことを発表し合うことができる。
<p>6 阿修羅からのメッセージを語り合おう。 (1) 3つの顔をよく見てそれぞれの顔が何をつぶやいているのか、その理由も考える。 (2) グループの中で話し合う。 (3) 阿修羅像を1字で表すと何という漢字がふさわしいか、理由とともに考える。</p>	<p>個別 グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合った内容から新たな発見や、相手の意見を取り入れながらワークシートにまとめることができる。 ビデオから得た情報や、自分で思い描いた感情を織り交ぜながら考えさせる。 3つの顔はそれぞれ少しずつ違う印象をもっていることを生徒から出た意見から押さえる。 一人の人間の心の成長を表していると感じさせる。 学習してきたことをまとめて、理由を考えながら漢字1字で表すことができるようにさせる。 現代の私たちにどんなメッセージが託されているのかを考えるよう助言する。
<p>7 本時の学習を振り返る。 (1) 本時の学習を振り返り、自己評価表に記入する。</p>	<p>個別</p>	<p>⑤ 阿修羅像について、興味関心を持ち、作品を楽しみながら日本の美術や伝統と文化に対する理解を深めることができた。 (発表・ワークシート) <評価の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> 阿修羅像について、イメージを広げ考えや思いを自分の言葉でわかりやすく表現している。 自己評価表に本時の感想を記入し、授業の振り返りをする。

導入時

- ・シルエットを見て、「何の形か？」考える。
「なぜそう思ったか？」の発問に
挙手での発表では、「手が6本ある。」
「漫画で見たことがある」
「お父さんが好きで、家にフィギュアが置いてある。」
などの声があった。



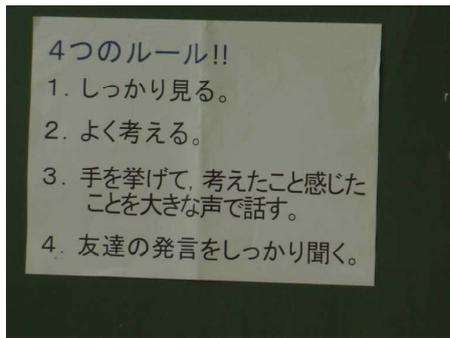
- ・クイズに答えながら考える。
- (1) 阿修羅像の表情, 体型, 服装などから, 製作方法, 年代, などについて考える。
- (2) 全体で答え合わせをしながら, 意見を交換する。



人の感情を表す言葉には, どんなものがあるか考える。



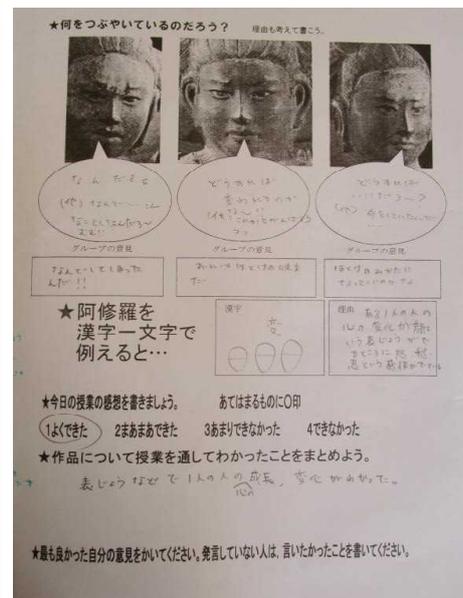
阿修羅からのメッセージを語り合おう。



3つの顔をよく見てそれぞれの顔が何をつぶやいているのか、その理由も考える。



ワークシート



III 研究の成果と課題

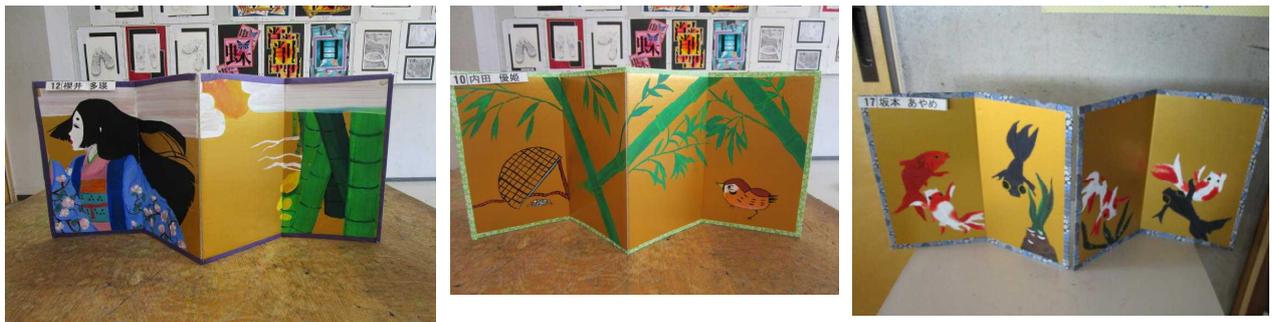
鑑賞の授業において、美術作品をよく見てその意味を自分で創り出す、生徒中心の授業の中で、一人ひとりが学習に参加することができた。友だちの意見を肯定したり、新しい発見をしたり、自分との意見との違いとのなかで体験的に学び、知識を構成していくことができた。普段自分の意見を発言しない子も積極的に参加する姿も見られた。この学習過程を通して美術作品の理解が深まってきたようである。問題解決能力や主体的思考力、コミュニケーション能力などの知的能力も以前に比べて育ってきた。また、ワークシートを使い、連想・観察・解釈・感想・判断の鑑賞の行為を提示することにより、作品をよく見ることで、そこから各観点に沿って自分の考えをもつことができるようになった。見る視点を与えることで、作品の中から対比する部分などを見つけ出すことができるようになり、造形的に表されたものを読み解き自分の言葉で文章化することによって、感じたことをより明確化する具体的な言語で表現できるようになったように思う。

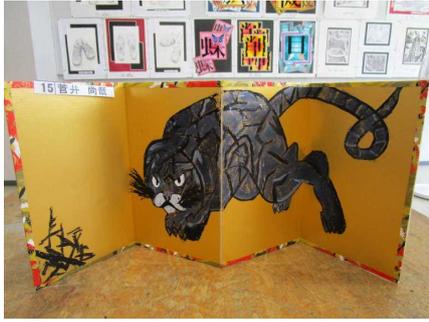
また、今回以降の課題において、日本の文化や美術的要素を取り入れた作品づくりにおいても、様々な視点で、自分の考えを作品に表す創作にも変化が見られた。

和菓子の製作



屏風の製作





作品掲示



今後の課題

今回の研究をさらに深めるために、生徒の実態を詳しく把握し、生徒の実態に即した、作品の視点についてわかりやすくを精選を進めていくことが不可欠である。生徒の変容についても事前事後の把握の仕方に工夫をしなければならない。

単に知識や作品の定まった価値を学ぶための学習ではなく、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくりだすことが十分行われたとは言えないのが現状である。鑑賞学習を推進していく手立てとしての、言語活動の充実を図るためにも、他者の考えなども聞きながら、それをもとに自分になかった視点や考えをもてるよう、教師がファシリテータとして、漠然とした発言の根拠ではなく、具体的な意見を求め、常に作品に戻って意見を述べられるような方策も考えていきたい。

自分の目と心でしっかりと作品ををとりえて見ることのできる環境や、自分の中に新しい価値がつくり出されるための、段階的に充実した指導のさらなる展開を実践できるよう努力していきたい。